



風かおる
人が輝き
躍動するまち

とままえ

11

No.579



まちびと 百景

留萌地方中体連英語暗唱大会

第49回留萌地方中体連英語暗唱大会が古丹別中学校で開催され、苫前中学校2年生の小澤菜摘さんが最優秀賞、古丹別中学校3年の堀純平くんが優秀賞(第3位)となった。

町内から選出された2人が入賞となるのは珍しいとのこと。小澤さんは11月23日に札幌市で開催される全道大会に出場するとのことで、練習の成果が発揮されることを願います。

- 野崎民生委員留萌支庁長表彰…2
- 交通安全協会設立40周年記念式典…3
- 町内小中学校学芸会・文化祭…4
- 手作り絵本講習会…5
- 月夜の告白…6
- 古丹別中学校吹奏楽部演奏会…7
- 健康ばんざい…8
- 学びの広場…9
- 国保ガイド・介護保険Q&A…10
- 国民年金・川柳…11
- すまいる情報…12~13
- 中学生ギャラリー…14

まちの人口

人口/3,714人(男/1,732人:女/1,982人)
世帯数/1,655世帯 (10月31日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

長年の功績をたたえて ～野崎信輝民生委員留萌支庁長表彰受賞

この度、民生委員児童委員として12年以上在任し功績のあった方として、苦前で食堂を経営している野崎信輝さんが留萌支庁長表彰を受賞し、9月18日（金）に実施された民生委員協議会定例会の席上で北海道留萌保健福祉事務所の末澤秀樹所長より表彰状が授与された。

野崎さんは、平成9年1月より民生委員児童委員として活動しており、現在は民生委員協議会副会長として会長を補佐し、他の民生委員児童委員へ指導助言を行っている。さらに責任感が強く、地域住民の信頼も厚く住民の生活上の各種相談や生活向上に尽力しているなど功績も大きいことから今回の受賞となった。

これからも地域住民のより近い相談者として民生委員児童委員の役割も大きいことから健康に留意され、ご活躍されることをお祈りします。



ピカソやシャガールと出会える ～ぐるっと美術館苦前展～

9月25日（金）から29日（火）まで5日間、公民館において北海道立近代美術館や旭川美術館に収蔵されているピカソやシャガールなど海外の著名な作家の作品や道内出身などのゆかりのある作家の作品など40点が展示され、町内はもとより町外から530名の来場があり、本物の芸術に触れた。

この事業は、北海道近代美術館で行われている移動美術館（ぐるっと美術館）に本町で申請したところ採択となり実施したもの。本町では平成元年以来20年ぶりの実施となった。

開会式では、伊藤教育長、柴山留萌教育局長の挨拶の後、森町長、松岡文化協会会長、佐藤近代美術館学芸第二課長らが加わり、テープカットにより開館。情報を聞きつけた住民約30名が早速本物の芸術に触れた。25日には古丹別中学校全校生徒が、28日には苦前中学校全校生徒も学習の一環として、作品を鑑賞した。



作品には、絵画はもちろん、ガラス工芸、木工芸や木彫などがあり、中でもチーターをかたどった木彫や女の子がボタンをかけているブロンズ像は、リアルさや存在感が目を引き、来場者が足を止めしばし作品に見入っていた。また、ピカソやシャガールなど海外の著名な作家の作品もその独特な色彩や筆のタッチ、特徴的な技法なども注目されていた。中には何を意味しているのかわからないものもあり、首をかしげる鑑賞者も見受けられた。

最終日には、北海道立旭川美術館の光岡学芸員を講師として成人講座「北海道が誇る美術館」が行われ、展示している作品を解説しながら鑑賞する試みも行われ、大盛況のうちに終了した。



農業を知ろう ～学社融合事業「稲刈り体験」～

例年実施している学社融合事業「稲刈り体験」が9月29日（火）岩見の花井秀昭さんの圃場で行われ、苦前小学校（八谷芳博校長）と古丹別小学校（岩村直幸校長）の5年生あわせて33名が昔ながらの稲刈りとコンバインへの乗車などの体験を行った。

小学5年生では、いろいろな産業について学習を行っており、本町の基幹産業が農業であることから毎年5年生になると種蒔きや田植え、生育調査、稲刈りなどを行っており、本年も4月に蒔いた種蒔が育ち、田植えを実施、途中の生育状況

や稲の花などを観察して、この稲刈りを迎えた。開会式で花井さんから、稲を握る時には親指を下に向けないことやのこぎりのようにガリガリこすらないこと、刈った稲は穂をきちんとそろえることなどの注意事項があり稲刈りがスタート。

最初は、おっかなびっくり作業していた子供達も、徐々に慣れてきてスピードアップ。衣服に泥が跳ねたりするのも気にせず、約1時間ほどで稲刈りが終了、刈った稲をコンバインまで運び、脱穀を行った。その後、5年生がコンバインに乗車し、機械で稲を刈る様子を見学、今まで乗ったことのない乗り物であることや稲を刈るスピードの速さやスムーズさに、児童の楽しそうな顔が印象的だった。

閉会式では、古丹別小学校5年生の伊藤充洋くんから「種蒔きから稲刈りまで本当にお世話になりました。ありがとうございました。花井さんのおかげで米のことがよくわかりました。これから、稲作発表会があるので、ぜひいらしてください。」とお礼の言葉で締めくくられた。

この日刈られたお米は精米され、両校へ配布される予定である。



大きく育つてね！～げんきの森記念植樹とワークショップ～

留萌支庁林務課及び留萌森づくりセンターでは、森の中での活動を通じて子供達の「生きる力」を育てるため、地域の児童・生徒が体験活動の場となるよう「げんきの森」の設置を行っており、9月28日（月）力昼地区の旧力昼小学校敷地内での植樹と力昼生活館でワークショップを古丹別小学校1年生10名が行った。

この場所は、春に実施された植樹祭でもエゾヤマザクラ約100本を植樹しており、今回げんきの森づくりとしてエゾヤマザクラ10本、キタコブシ10本の植樹と「げんきの森」の看板設置を行った。古丹別小学校1年生の10名は自分の背丈ほどある苗木を一生懸命運び、丈夫で育ってほしいと願いながら苗木を植えていた。記念撮影をした後、力昼生活館に会場を移し、ワークショップとして森に関する絵本の読み聞かせや木のネックレスづくり、ネイチャーゲームなどを体験し、森に関する理解を深めた。



交通事故ゼロをめざして～秋の全国交通安全運動「街頭啓発旗の波作戦」～

9月30日（水）苫前中学校前駐車帯にて、町、交通安全推進協議会、交通安全協会主催による街頭啓発旗の波作戦が実施され、同協会、交通安全指導員会、日赤奉仕団、苫前婦人会、役場職員など約30名が協力した。

本町では8月1日（土）霧立峠にて死亡交通事故が発生し、平成18年から続いてきた死亡交通事故ゼロの記録が715日でストップしている。特にこれからの時期は日没が早くなることや天候の変化が顕著であるため、歩行者の発見が遅れることによる人身事故等の増加傾向にあることから注意が必要である。そのことから協力者は死亡交通事故ゼロではなく交通事故ゼロを願い、通行する車両に旗の波でスピードダウンを訴えた。



苫前町交通安全協会設立40周年記念式典挙行

10月3日（土）とままえ温泉ふわつとにおいて、交通安全協会設立40周年記念式典が協会役員や警察関係、来賓等をあわせ42名が出席し挙行された。同協会は、昭和44年に設立し、各期交通安全運動への参加と実践、交通安全大会や行事への参加と協力、新入学児童及び保育園(所)入園児への交通安全啓発資料の贈呈など交通道德の啓蒙・交通事故の防止などを目的に活動してきた。

冒頭の挨拶で同協会の千葉國雄会長は、「車社会は我々に大きな利便性をもたらした反面、スピードの出し過ぎなどにより尊い命が奪われるという社会問題となっている。協会も40年を迎えたが、改めて関係機関と連携、一丸となり事故撲滅に向けた活動を展開していきたい。」と決意も新たにされた。

同協会でも尽力された鎌田節雄氏に感謝状が手渡され、来賓の祝辞のあと、「交通死亡事故抑制対策について」と題し、羽幌警察署地域交通課の相澤博昭氏より記念講演も行われ、協会役員も真剣に耳を傾けていた。



町内の歴史を振り返るウォーキング～成人講座「ふるさとぐるっと散歩道」～

成人講座「ふるさとぐるっと散歩道」が10月3日（土）開催され、22名が時折雨が降る中、ふるさとの歴史を振り返るウォーキングを楽しんだ。

この事業は、健康を意識したウォーキングと苫前市街に点在している史跡の紹介から郷土の歴史を学ぶ機会とを有機的に結びつけたもので、参加者同士の交流と新たなコミュニティ形成のきっかけづくりを目的に今回初めて開催された。

コースは、郷土資料館からオートキャンプ場、漁港を経由し寺子屋跡や苫前神社、戸長役場跡など約4キロを2時間かけて歩くもの。史跡では郷土史研究会の野澤哲美氏、鎌田信夫氏から説明を受けた。

参加者は、町並みの変貌を体感するとともに、史跡についての知識も深めることでまちの歴史を知ることができたようだ。



感謝を込めて～水泳少年団によるB&G海洋センター清掃奉仕作業

水泳少年団25名と少年団育成会（林綾子会長）15名と指導者のあわせて43名が10月5日（月）活動場所であるB&G海洋センターの清掃作業を行った。

水泳少年団は平成6年に設立し、毎週2～3回の例会を実施しており、全道のB&G海洋センターで開催されている大会などへ選手の派遣を行うとともに、国内海洋セミナーにも団員を派遣し、団体活動のリーダー養成を行うなどの活動を行っている。

清掃活動も少年団の設立より実施してきており、この日も7月から9月までの3ヶ月間活動できたことへの感謝を込めて、プールサイドの床面や更衣室の清掃などを行った。



町内の小中学校で学芸会・文化祭開催 ～文化の秋・芸術の秋 一色～



苦中祭・古丹別中学校文化祭

苦中祭、古丹別中学校文化祭ともに10月4日(土)に実施された。苦中祭は「NEW STYLE ～創りだそう 輝く希望 未来の絆～」として自分たちで考え、工夫しよりよい文化祭にするため、新しいことにチャレンジしようという想いでテーマを設定した。従来まで合唱を学年対抗で競っていたものをやめ、器楽演奏を加え音楽祭として実施するなど昨年とは違う苦中祭に加え、従来通りのバザーやフリーマーケットなどの催しも実施され、大勢の来場者で賑わっていた。

一方、古丹別中学校文化祭は「咲き誇れ!!46の大輪の花を～1人は千思万考、みんなは千紫万紅～」として全校46人一人一人がアイディアを出し合い、それぞれ自分たちの個性を出し、表現、発表をしようという想いでテーマを設定した。例年学年対抗で行われている合唱コンクールだが、1年生が7人しかいないこともあり、今回は、学年を2つに分け、紅組・白組として競った。また、各学年発表の演劇や吹奏楽部の演奏のほか、全校生徒による豊饒太鼓は迫力ある演奏で一際会場を沸かせていた。



苦前小学校学芸会・古丹別小学校学芸会

苦前小学校学芸会は10月10日(土)に実施され、「一人一人が舞台の上で花火のように輝こう!」をスローガンとして、一人一人が元気に踊ったり、大きな声で台詞を言うことで表現することで、クラスや全校児童が光り輝くことを目指して行われた。

日曜日の朝に放送されるアニメの曲にあわせた1年生の遊戯では、元よく踊る光景が見られたほか、6年生による水戸黄門は、水戸のご老公一行が苦前を訪れたと言う設定で会場の笑いを誘っていた。

一方、古丹別小学校学芸会は10月18日(日)に実施され、「努力!協力!全力!～笑顔で発揮 古小の力」をスローガンとして、一人一人が努力、協力し、全力を出すことでいい演技や演奏をすることを目的として行われた。

文字通り演劇では一人一人大きな声が出ており、踊りでも動きが大きくよい表現がされていた。また、4年生では映画「ウェストサイドストーリー」の曲にあわせた創作ダンスや、5・6年生の器楽演奏ではNHK大河ドラマのオープニング曲である「天地人メインテーマ」の完成度が高く、迫力ある演奏に会場から大きな拍手を得ていた。



楽しみながら絵本づくりを ～手作り絵本講習会～



留萌管内の図書ボランティアや一般住民を対象に手作り絵本の作成に係る準備から指導方法までの一連の流れを学習し、ボランティア活動の充実と地域住民へ読書を推進する力を身につけることを目的に、10月5日（月）公民館において手作り絵本講習会が開催され、地元苫前町のほか、留萌市や羽幌町などの図書ボランティアや一般住民あわせて20名の参加があった。この事業は、文部科学省の子ども読書応援プロジェクト事業の子ども読書地域ボランティアリーダー育成事業で先月開催された絵本読み聞かせ講習会に続く全4回のうちの今回が第2回目となる。

今回の講師は、NPO北海道子育て支援ワーカーズの伊藤義子氏と谷淳子氏が務めた。冒頭で絵が苦

手という人が多くいるが、絵が下手でも楽しく作る方法、子どもに楽しく教える方法を学ぶとともに、今日は絵の具で遊んでほしいとの説明の後、実際に画用紙を折り、指や綿棒などを使い、水性絵の具を使ってクローバーや花火、うさぎ、人などをどのように書けばよいかを学んだ。その際も大人が楽しんで書くことでその楽しさが子どもにも伝わることに加え、他の人の書き方でよいところがあれば自分のものにしてほしいなどのアドバイスもあった。

参加者は周りの人との話もそこそこに、絵本づくりの技術などを習得しようと真剣な表情ながら、時折子どものように楽しみながら講習を受けていた。



料理講習会「我が家で簡単イタリアン」

社団法人北海道栄養士会留萌支部の主催による秋の料理講習会「我が家で簡単イタリアン」が10月8日（木）に公民館において開催され、男女あわせて24名の参加者が集まった。この料理講習会は年1回実施されており、男性の参加者も多く今回も参加の4割が男性と毎回好評を得ている。



初めに栄養のミニ講話では1日に何をどれだけ食べたらよいかの目安を分かりやすくコマのイラストで示した食事バランスガイド（厚生労働省発行）を用いての説明があった。

今回のメニューはイタリア料理ということで「フライパンで焼けちゃうピザ」「ちょこっとティラミス」など4品を作った。女性参加者のグループでは順調に進んだ一方、男性参加者は普段包丁を握っていない方もいて苦闘する方や、中には手際のよい方も見られた。調理実習を終え完成したアツアツのピザなどを楽しそうに懇談しながら試食した。

プレミアム地域振興券が大好評・完売

苫前町商工会（菊地暢会長）で発売した限定プレミアム地域振興券の発売が10月20日（火）福祉センターと商工会で行われ、わずか2日間で準備した2,500セットが完売した。



地域振興券は500円券12枚と1000円券6枚綴りの1万2千円分の買い物ができるものを1万円で販売、総額3000万円分を発行した。

この券は500円券が商店・飲食店・理美容店・サービス業で、1000円券はセイコーマート、土木関係を含む全業種で「プレミアム地域振興券取扱所」の表示が掲示されている商店・事業所等で使用することができるが、利用期限が平成22年1月31日までとなっているので、注意が必要である。

商工会の河端事務局長は、このことがきっかけとなり商店街の活性化につながればと期待を寄せている。

高品質の商品が出荷可能に ～豆類乾燥調製施設竣工式～

6月に工事が始まった豆類乾燥調製施設が完成し、10月20日（火）に同施設で竣工式が行われ、お披露目となった。式では祝詞奏上、玉串奉奠のあと、松原幸博農協代表理事組合長、森町長、西田俊夫留萌支庁長などによる始動式が行われた。

施設の特徴は、乾燥設備のほかに汚粒クリーナーや色彩選別機、粒選別機などの最新設備を導入したことにより、これまで以上に高品質の商品を出荷することが可能となった。

大豆などの豆を取り巻く環境は輸入物などの影響で大変厳しいものの、本町では作付け面積が急増し、水稲に次ぐ作付面積となっていることから、この施設の完成がますます生産者の生産意欲の向上につながるものと期待されている。



笑いあふれる90分 ～月夜の告白～

10月20日（火）公民館においてとままえ舞台鑑賞友の会、北海道新聞社、財団法人北海道演劇財団、文化庁主催による平成21年度舞台芸術の魅力発見事業「夫婦印プロデュース月夜の告白」が公演され、約200名の来場があり終始笑いに包まれた。

出演は、菅原大吉さんと竹内都子さんの二人。お二人は平成19年に「満月～平成親馬鹿物語」を上演、本町での公演は2回目、8月に一度来町しこの公演についての「トークショー」を同会場で実施している。

この「月夜の告白」は脚本が水谷龍二さんの喜劇で、恋愛に縁のなかった中年の男女の物語。結婚を諦めていた二人が、お見合いパーティーで知り合い、まったく好みでもないのに何故かデートを重ねていく。ロマンチックのカケラもない会話が寒空の下、都心の小さな公園で延々と交わされていく課程をコミカルに描いた作品だったが、息のあった二人の掛け合いやしぐさに会場は笑いつばなし。特にいざこざとなった際、菅原さんに対して竹内さんがスタンガンで攻撃する場面では大爆笑を誘っていたが、ラストにはちょっぴりせつない場面もあり、メリハリのある舞台が展開された。

公演終了後、花束を受け取ったあとのカーテンコールで菅原さんと竹内さんは、「以前にも公演させていただいたが、苫前町は本当に温かい人が多く、公演前のご飯も手作りで大変なおもてなしを受け感謝している。自分たちもこれまで以上に楽しい作品を作り上げていき、また苫前町で公演してもらえようがんばっていきたい。」と話し、会場から大きな拍手を受けていた。



人権ってなんだろう？ ～古丹別中学校人権教室～

10月22日（金）古丹別中学校3階多目的教室において、全校による人権教室が実施された。この事業は本町が地域人権啓発活動活性化事業の実施市町村として指定されており、これまでに人権の花運動や人権図書の贈呈、各種イベントにおける人権の啓発活動などを行ってきたが、その一環の事業として実施されたもので、人権教室は今回の古丹別中学校で行われたのが初めて。

冒頭で人権の花運動への協力に対する感謝状の贈呈と人権啓発のための図書贈呈式が本町人権擁護委員の竹橋隆至さん、村田正夫さんより行われた後、人権教室が行われた。

講師は、環境共育事務所うてきあにの太田稔さん。太田さんは、「環境共育」文字通り環境とどのように共存、育っていくかを中心に活動を展開している。

今回の人権教室は、ワークショップ形式（体験型講座）で実施、班ごとに昔話の桃太郎を題材に物語を作り上げていく内容を行ったが、これは相手の話を否定せずいったん受け入れること。要するに相手を認めることが人間の根本であり、重要な部分であると話した。続いてはトランプの「バーンガ」をプレイしていくもの。このゲームでは各班ごとにルールが少しずつ違っており、別の班に移動した者はその班のルールにとまどうところがポイント。ここでは違うものは偏見の目で見てしまうが、世の中には様々な人がいること。すなわち多様性を認めることが今後大切だと説明した。中学生はこれから成長していく段階で様々な異質を感じることもあり、もしかしたら自分が都会に出た場合、異質として捉えられることもあるため、違いを探すのではなく、共通点を探すという違った視点も必要であると説明した。



苫前商業高校体験入学

10月23日（金）苫前商業高校で体験入学会が開催され、生徒・教諭・保護者約35名が参加した。苫前や古丹別中学校はもとより初山別や鬼鹿からも参加があったが、羽幌中学校の生徒はインフルエンザのため欠席となった。

冒頭に、金濱茂校長より「これからの10年後をどのように描いているか。中学生から先を考えることは大変かもしれないが、10年後のためにどのような学習が必要かなどのプランを思い描いていくことが重要。」と話した。

この後、学校の様子をまとめたDVDを視聴し、オリジナルカレンダーづくりを体験する班と3年生の体育の授業参観を含めた校舎見学班の2班に分かれてそれぞれ行った。



古丹別中学校吹奏楽部演奏会

10月24日(土) 公民館において古丹別中学校吹奏楽部の演奏会が開催され、14名の吹奏楽部員の熱い演奏を、約80名の住民が鑑賞した。

昨年までは、中学校体育館で演奏会を行っていたが、公民館での演奏会は今回が初めてで、この演奏会で3年生が引退するということもあり、部員の気合いと緊張はこれまで以上だったようだ。

演奏会は、第1部のアンサンブル、第2部のメドレーの2部構成。曲目もアニメソングや甲子園応援曲、J-POPなどのほか、鍋・包丁・ボウルなど台所用品を使った演奏などもあり、会場を大いに楽しませていた。また、第2部後半では、3年生への感謝を込めた花束贈呈と1・2年生による演奏がサプライズで準備されており、聞いていなかった3年生は、うれしさとこれまでの思いが重なり涙ぐむ場面も見られ、会場も大きな拍手で包んでいた。

とてもあたたかな雰囲気で行われた演奏会は、日頃の練習の成果が十分に発揮され、明るく楽しい古中サウンドが充分会場に伝わったものであった。



ファイヤー通信

お宅の消火器は大丈夫？老朽消火器に注意！

9月に大阪で耐用年数を過ぎた消火器が破裂し、小学4年の男児が重体に陥る事故が発生しました。自宅や会社にある消火器をもう一度確認し、次のことに注意願います。

☆消火器が風雨にさらされる場所や湿潤な場所に設置されていないかを確認するとともに、消火器の状態を点検し、腐食が進んでいるものは、絶対に使用しないこと。

☆老朽化した消火器は底の部分が腐食し触っただけで破裂する場合がありますので、特に底部の腐食には注意してください。

☆不用になった消火器については、放射、解体等の廃棄処理を自ら行うことなく、回収を行っている事業者へ廃棄処理を依頼すること。特に腐食が進んでいる加圧式の消火器は、容器破裂の危険性が大きいので、速やかに廃棄処理を依頼しましょう。

☆消火器の耐用年数はおおむね8年です。8年以内であってもキズやサビ等の異常があるものは速やかに交換してください。



火事・救急は119番！

北留萌消防組合消防署 苫前支署 ☎64-2321
" 古丹別支署 ☎65-4119

地域社会貢献事業

まちの施設を整備していただきました

古丹別ゲートボール場付近への植樹

道北土木株式会社

東川防護柵補修工事を行っている道北土木株式会社(森本登社長)が、苫前商業高校横にある古丹別ゲートボール場付近の環境整備ということで、ナナカマドの苗木15本を植樹した。

この付近には木々が少なかったところですが、今回の植樹で、本町の樹木であるナナカマドが植えられたことで景観がよくなりました。将来的にはななかまどが大きく育ち、秋には赤々とした実がなり、彩りを添えることと思います。

大変ありがとうございました。



古丹別バスターミナル表示看板の撤去及び落雪防止柵取替

協和建設株式会社

古丹別老人クラブの活動場所として、現在古丹別バスターミナルの旧喫茶室を改修している協和建設株式会社(丹羽丈夫社長)が、ターミナルの屋根部分に設置している表示看板と落雪防止柵が老朽化していたため、看板の



撤去及び柵の取替を実施していただきました。

もし気づかず冬になっていたら、雪とともに看板や柵が落下していた可能性もあったことから、今回の申し出により未然に事故を防ぐことができました。ありがとうございました。